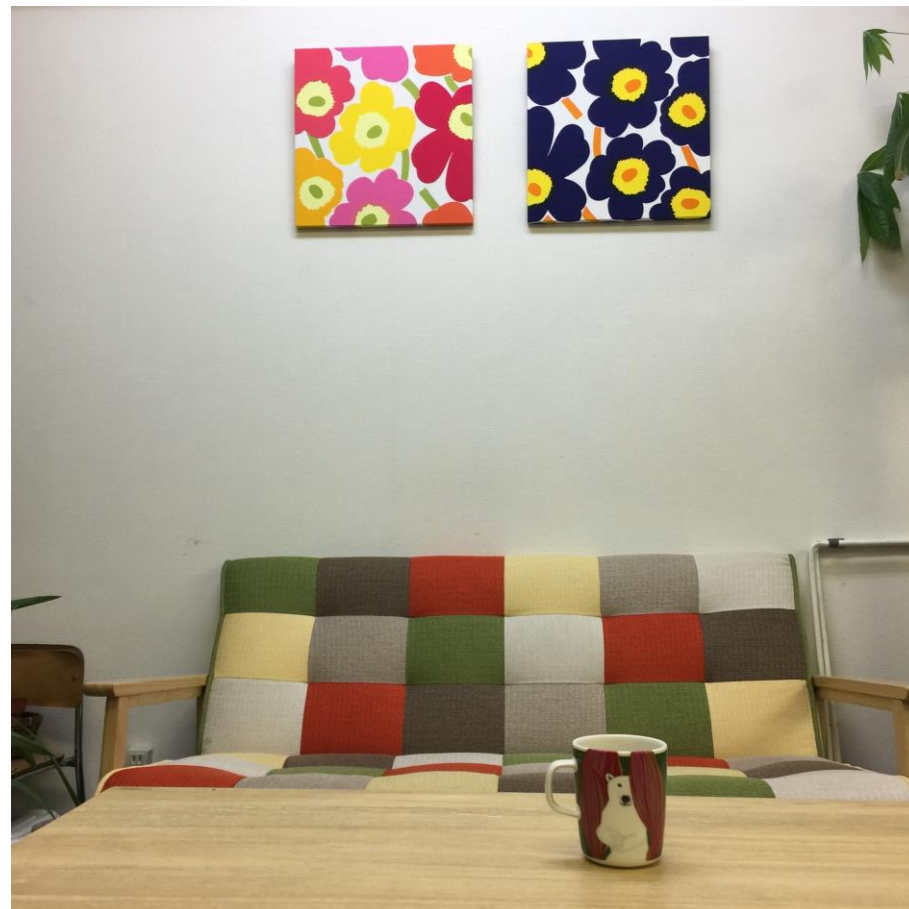


共生舎

スタディラウンジむろらん

開業1周年 トークセッションレポート



2017.1.4 15:00～17:15
於 共生舎・スタディラウンジむろらん
(北海道室蘭市輪西町2丁目3番1号)

◆ 概要

* 出席者

男性 7名 女性 3名
計 10名

* 年齢層

30代～70代

* 職業

会社経営者、自営業、音楽講師、
観光ガイド、会社員

* テーマ

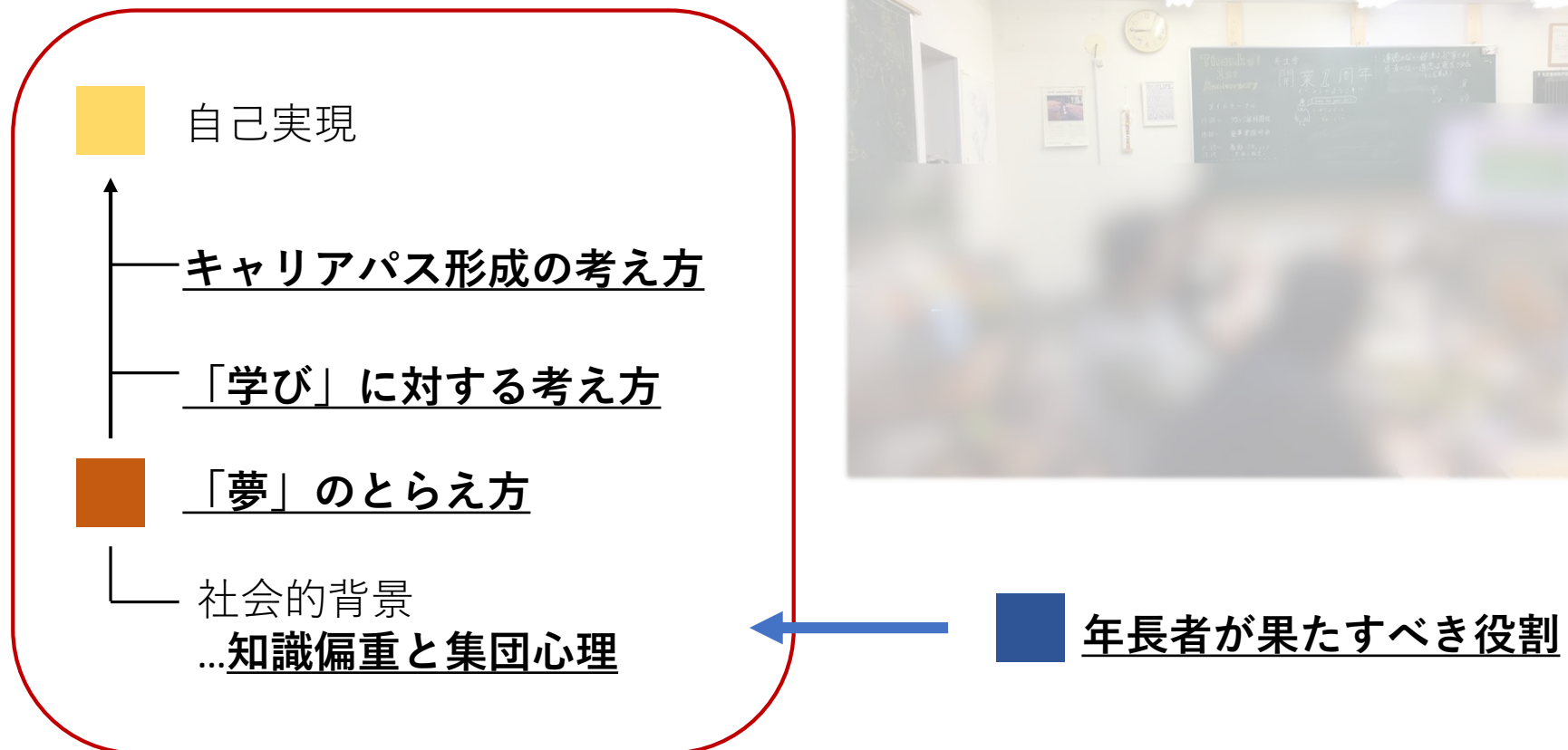
「世相と教育」



* セッションの展開

- ・ 知識偏重と集団心理
- ・ 「夢」のとらえ方
- ・ 「学び」に対する考え方
- ・ キャリアパス形成の考え方
- ・ 年長者が果たすべき役割

◆ セッション概念図



以下、セッション内で行われたディスカッションの内容です。

○知識偏重と集団心理

* 「正論」 同士のせめぎあい

20年ほど前、PTAの会長を務めたことがあったが、昔と違って、**親御さんの教育水準が向上**した結果、それぞれの考えにしっかりと裏付けがあったため、意見の相違はそれぞれの「正論」のせめぎあいになる。結局は多数決で解決するのだが、**それぞれが「正論」**であったので、禍根が残らないわけではなかった。今はもっと教育と経済の水準が上がっているので、現場の先生方は大変なのでは、と思う。

* 「知識」と「知恵」

「正論」で勝負するだけの知識はあっても、最適解を導くための「知恵」と必ずしも結びつくとは限らない。「**知恵**」には**実践的な裏付けが必要**となる。

* 集団心理の困った作用

- ・「**誰かが何とかするだろう**」...知恵を産み出したり得たりできない。
- ・「**多数派に属していないと不安**」...少数派がいないと多数派も生まれない。
だから、少数派をつくり出すのが、いじめの心理ではないか。

○知識偏重と集団心理

* 集団心理の困った作用

・ 集団や匿名ではバンバン意見や批判をするのに、**公の場では自分の意見として意見できない人**があまりにも多い。

→自ら主体的に考えることを、ある意味では放棄しているのでは。

* 「生き方」の自由度

日本社会は、一度、いわゆる「レール」を外れてしまうと、**ふたたびその「レール」に乗ることが、とても難しくなる**。また、ある程度渡り合うための**スキルや力を身につけたとしても、それを活かすことができる場**がないということがよくある。

仕事は「人」で成り立っているのに、被用者を「個」として認めてあげないのは問題があるのでは。

* 出る杭は打たれる

若年層のチャレンジの足を引っ張りたい人がいる。高みを目指させてはくれない。**地に足がつかないのは当然。足がつくまでチャレンジできる環境が必要**。

○「夢」のとらえ方

* 小さな子の夢

自分の手の届きそうな世界。昔の幼い子供が行っていた「ごっこ遊び」は、その最たる例。I Tが人生の早いうちから身近である今も、本質は変わらないのではないだろうか。

* 世代や立場による「夢」のギャップ

若年層は、物質的に恵まれた環境から人生がスタートしているが、常に不況が付きまとい、**「夢」**について問うと**「安定した生活」**と答える傾向が特に子育て世代以下に多く見られるようだ。

他方、苦しい時期を味わったことのある人は、年代に関係なく、高みを目指したい欲求があるようだ。ここに**「夢」のとらえ方のギャップ**があるようだ。

* 「夢を持て」がプレッシャー？

昭和30年代生まれは、物質的には貧しくとも、これから豊かになる、という見通しがあった。ところが今は、物質的には恵まれているものの、希望が見えない時代。**安定した暮らしこそが希望なのかもしれないのに、上の世代が言う「夢を持て」という言葉が、プレッシャーになっているのかもしれない。**

○「夢」のとらえ方

*夢が叶い、食べていけるという人はひと握り

俳優や各種専門職は、40歳になってやっと開花したという人が多い。また、それが「食べていけるかどうか」という観点からすると、厳しい状況にある人も多い。希望は持てるなら持てたほうがいいが、良い面ばかり見て踊らされてもいけない。**どのみち、人生一度は、死に物狂いに頑張らなければならない時**が来る。

*便利さがパワーを下けている？

昔の人には、情報もツールも少ないぶん、突き進むパワーがあった。今は、情報の高度化がパワーを奪っているのかもしれない。

*夢と現実との折り合いを

夢には挫折がつきまとう。夢と現実とのはざまで、自分の立ち位置がどこにあるのかを確認できる場が必要では。

○「学び」に対する考え方

* 気持ちのゆとり

昔は、他人の子どもであっても、ある程度は見守ったり、ほめたり叱ったりすることができていた。当時の子どもたちは、このような環境で、叱られない方法を考えたりしながら、大いに遊ぶことができたと思う。

今は、他人の子どもを叱ろうものなら、「あなたに関係ない」と保護者に怒られる。気持ちにゆとりがないのだろう。

子どもは遊びの中から学んでいくもの。**うんと遊ばせてあげる度量**が、私達大人には必要ではないかと思う。

* 「子ども扱い」はしない

自分には子どもが3人いるが、三者三様の生き方をしているが、それぞれを尊重すると、喜んで、進んで伸びてゆくことがわかった。

「勉強しなさい」と言ったことはない。また、できるだけ自分からは、「ダメ」「反対」は言わないようにしている。その代わり、**不利益と思われる情報はきちんと教える。**その上で**自分が考え抜いて出した結論**については、**出来る限りの応援**をする。

○「学び」に対する考え方

* 自分の考えを言えるように

聞きわけが良いことと、社会に出て通用するかということは別問題。
自分の考えが言えるように、**折れない心**を身に付けてほしい。

* 次の世代への配慮を

生きていると、あらゆることを否応なく学ぶ。**若い人からエネルギーやアイディアをもらうのも学び**だと思う。だからこそ、「目の上のたんこぶ」として次の世代に窮屈な思いをさせるのではなく、**伝えるべきことは自然体で伝えて**いければと思う。

* 年長者に求められる心構え

上の世代の意見が、下の世代の「伸び」を止めてしまうことがある。
自主的に取り組むように教育するには、物事の**メリット・デメリットの両面を説明し、本人の考えを聴く**ということが必要ではないか。
情報を与えて、「やっでごらん」という姿勢が必要では。

○キャリアパス形成の考え方

* 動機が自分の中に生まれるか？

叱られ慣れていない世代、叱り方をわからない世代。一つ間違えるとハラスメント。**どうやって下の世代を導いてあげたらよいか悩む**。アドバイスをするのもいいが、された側が「言われたからやる」という感覚では、自分で自分の責任を取る方法がわからなくなってしまうのではという懸念もある。

* 社員教育の質的变化

昔は、会社が忠実な人材を育て上げることが至上命題だったが、今は自分の力を自分で伸ばしていくことが求められている。であれば、**自分が何をしたいのかがある程度見えていて、自分が活かすことのできる持ち味を活かしあうということが望ましい**のだが、若い人にはそれが難しいかもしれない。

* 自己実現が是とされる？

今の若い人達には、「個性を活かせ」と言われることが、ひょっとしたら、プレッシャーになるのかもしれない。また、「やりたいこと」は変わっていくこともあるので、勧める側も進んでいく側も**柔軟に考えたほうがよいのかも**。

○ 年長者が果たすべき役割

* 「人生二毛作」

第一線を張っていた人生、そして第一線から離れていく人生。早期から世代交代を意識して、**あとの世代に文化的なことを伝えていく**ことが必要では。

* 自分の考えや意見を持って、発表できるように

自分の人生は、誰かが代わってくれるわけではない。いいことも悪いことも最後は自分自身。それならば、自分の考えや意見をきちんと持たせることや、それらを**周りの人が受け止める度量**も必要では。

* できる方法を一緒に考える

「ダメ」「できない」と言ってしまうのは簡単。だけど、こういう時代だからこそ、腰を折るのではなく、いい面と悪い面をしっかりと見て、一緒に考えることで、次の世代の人達は自分の選択で人生を切り拓いていけるようになるのでは。

○ 編集後記

- ・当たり前が当たり前でなくなるということや、計画していたことが大きく覆されるということは、昨今の世界情勢を見ても決して対岸の火事ではありません。
- ・学習指導要領も、2年後の幼児教育から大幅に改定され、アクティブラーニングを通した生きる力の創造に力点が置かれることになります。つまり、正解が複数あるもの、もしくは正解として存在していないものまで、自分なりに考えて意見を述べなければならない場面が、子ども時代から訪れるのです。
- ・こうした時代の変化を見据えて、当「共生舎」では、かねてより集団・個別指導の境目のないフリースタイルで展開しておりましたが、今年度より、「塾生等心得」を設定し、学ばれる方が自主的に取り組むことを明確にしております。
- ・また、今年度も「共生舎文化祭」等の開催を通じ、ここに集うすべての皆さまが知識や知恵を共有できる場づくりを継続したいと考えております。
- ・末筆となりましたが、時節柄ご多忙のところお集まりいただきました皆さまと、1年間頂戴いたしました多大なるご厚誼に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

2017年も、よろしくお願い申し上げます。

共生舎 代表 高橋 慎吾